

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1190200376		
法人名	株式会社トゥルーケア		
事業所名	トゥルーケアGHなのはな		
所在地	川口市安行吉蔵271-1		
自己評価作成日	令和6年1月14日	評価結果市町村受理日	令和6年3月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号
訪問調査日	令和6年2月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

家庭的な雰囲気の中、職員一人一人が利用者様と共に生活していることを意識して関わりを持つようにし、落ち着いた環境で居心地よい暖かい生活、安心、安全な生活が送れるように努めていきます。
その人らしさを尊重し、生活の中に楽しみを見つける支援をいたします。
毎月のホーム内行事も利用者様の楽しみの一つになるよう工夫を凝らし、楽しい時間を過ごしてもらいたく思います。
なのはなだよりを2か月に1回郵送し、利用者様の状態の変化や最近の様子(行事の写真など)について、ご家族様に報告し連携を図ります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

・入居者への支援をコロナ禍前の状態に戻すよう取り組み、毎月の行事イベントの実施、町内の盆踊りへの参加、初詣などの外出が実施されている。また、毎月のフロアカンファレンスで新たに各フロアでリハビリ体操の強化も行われている。更に担当職員により入居者の近況を家族に伝える「なのはなだより」も実施され、家族とのコミュニケーションも図られている。
・運営推進会議は、文書形式から集合形式で行われ、地域包括支援センター職員や後見人の方々に参加され、防災対策や感染症対応などについて意見をいただき、事業所運営にも活かされている。
・目標達成計画の達成状況については、令和4年度は厚労省通知を満たし、外部評価の実施は緩和されたものの、災害対策での課題解決を目標に取り組み、災害対策マニュアルの整備や、参集可能時間把握表と緊急連絡網の再作成が行われるなど、目標達成が伺われる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている	理念の共有は出来ている。ホーム内に掲示し、一人一人に合ったサービスが出来るよう心掛ける様、状況により指導している。	入居者個々の気持ちに寄り添い、丁寧な言葉使いと入居者の話をよく聴くことで信頼関係を築かれている。自分がやられて嫌なことはしないケアに心掛け、ゆっくり楽しく笑顔で過ごしていただけるよう日々理念を実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の盆踊りは数名が参加、町会長に挨拶したり交流を図る。夢ワーク(職場体験学習)はまだコロナ禍の影響にて受け入れできず。運営推進会議は7月からホーム内開催を再開し、後見人様やご家族様、町会長、地域包括支援センター職員の参加があります。	散歩の途中で近隣の住民と挨拶を交わし、町内会の回覧が回り、町内盆踊りには入居者と職員が参加され交流が図られている。大家さんも含めて町内会の役員の方には運営推進会議にも参加いただき、良好なつきあいが進められている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町会の回覧板に目を通し、地域の様子を確認している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	令和5年9月から、運営推進会議に町会長、地域包括支援センター、ご家族様、利用者様参加にて開催出来ました。	運営推進会議は、集合形式による会議が復活され、町会長や地域包括支援センター職員、入居者後見人の方などが参加されている。活発な意見交換がなされ、運動不足対策などの意見を基に、膝ストレッチ体操などが導入されるなど、運営にも活かされている。	家族の参加や意見を述べる機会を作ることが大切と想定されることから、イベントの機会などと運営推進会議を同時に行い、家族にも参加し意見をいただく取り組みに期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃より市の担当者(介護保険課や生活福祉課ケースワーカー)と連絡はとれている。生活保護の手続きや年金の手続きの相談など行っている。	地域包括支援センター職員には運営推進会議にも参加をいただいている。市担当者とは事故報告書の提出、生活保護者への対応、年金手続きなどについて電話や窓口で相談され、感染予防対策についても情報交換がなされている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	フロアの入り口のみ施錠はしている。身体拘束適正化委員会や研修を定期的に行い、学びを深めている。人感センサー、徘徊感知マットの使用にて代替え対応をしている。	身体拘束廃止委員会、虐待防止委員会が定期的に行われ、身体拘束をしないケアに取り組まれている。車いすからの立ち上がり時の転倒リスクの高い入居者には、安全確保の視点からセンサーを使用しているが、外すことも検討されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会の定期開催、年に2回の虐待防止の施設内研修を実施して、虐待防止の意識向上に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人利用されている入居者様がいたり交流はある。生活保護申請者には、ご家族様にアドバイスと関係機関との連絡調整等の手伝いをしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、ご家族様に理解納得いただけるように十分に説明は行っている。契約確認書にて、入居中における状態変化リスクについて説明しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的にご家族様に手紙にて利用者様の状況報告ができています。面会時には意見要望を伺う様に努めている。意見要望を伝える機会を増やすため手紙の下部に意見要望記入欄の作成、意見の返送を始めました。	入居者からの「外食をしたい」との要望には、家族の協力で誕生日に外食などを楽しませている。家族からの要望にも応えられ、「障がい者手帳が欲しい」などの申し出には、医師への診断受診を手伝うなど、状況に合わせて対応されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談などで職員より意見や提案を聞き運営に反映させている。	職員意見は言い易い環境が整えられ、管理者も職員とのコミュニケーションをとり、意見や要望、アイデアを聴き取られている。食事のこと、ケアの中で気が付いたことなど、日頃から提案され、話し合って運営にも活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	役職手当、処遇改善手当は条件により対応できている。やりがいのある、働きやすい職場環境づくりに努め、管理者はスタッフの意見を聴くよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修は行い、外部研修にも数名参加した。新人職員オリエンテーション研修を新入職員全員が行った。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	エリア会議にて、系列グループホームの管理者の訪問や意見を聴いたり、サービスの質の向上に努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネジャー、計画作成担当者が中心となり、事前訪問調査、入居時に本人の思いを伺ったり、関係者からの情報提供してもらい、不安軽減に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回ケアプランの説明をなるべく面会時に、直接に要望を伺うようにして不安軽減に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前訪問し、どのような支援を希望しているのか伺い、プランに反映するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームでは安全に考慮し、個別の能力に応じ生活の一部を協力いただけるよう、職員に促している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様に病院受診を同行していただいたり、外出や面会の機会を設けてもらうように促しをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人などの面会や外出、利用者様が友人に手紙を出されたり、電話の要望があれば取り次ぎを行っている。	以前からの友人が来所されたり、手紙を出されたり、電話の取次ぎなどの支援が日常的に行われている。職員がギターを弾いて思い出のある歌を楽しまれるなど、これまでに経験したことを忘れず、馴染みが継続されるよう支援をされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアテーブルの配置に配慮し、利用者の安定が図られるような空間づくりに努めている、レクリエーションや作業を提供し利用者同士の交流が持てるようにしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養へ転居の希望があれば相談などに乗っています。退居後にご家族様等から相談がある時は、できる限り応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人やご家族様の希望や要望に少しでも沿えるように、毎月の各フロアカンファレンスでも検討している。	一人ひとりに寄り添い、仕事の話や出身地の話題から糸口を見つけて思いを聴き取るよう取り組まれている。また、こだわりの買い物がある入居者には、家族や後見人の許可を得て、職員と一緒に買い物に出かけるなど、意向に応えられている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴の把握には、職員居室担当者を決め、各自責任をもって情報理解に努め、全職員の共有ができるようにしていく。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り等により、日々の状態の変化を早期に対応できるよう努めている。自分でできる範囲内のことは行っていただき、有する力の現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当者がモニタリングを行い、カンファレンスにて意見を出し合いプランに反映させている。	居室担当によるモニタリング、フロアカンファレンスで職員の意見を集約し、計画作成担当者が医師、看護師の指示も踏まえたケアプランを作成されている。自立支援に向けた具体的なサービス項目が盛り込まれ、変更点は赤で囲み、職員への周知が図られている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各人の生活記録には介護計画に沿った記録をするように努力を続けている、職員間で情報共有し意見を出し合い介護計画の見直しに生かすこともできている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様に病院受診を同行していただくための送迎や、買い物の同行外出している利用者様もいます。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	各フロアにてホーム内行事を行い、町会の盆踊りにも参加、入居者の要望を聞き、食事会や誕生日会を行った。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	状態の変化にはかかりつけ医の受診を検討、ご家族様の協力も得るようにしている。精神科病院など個別の受診対応もしている。ホーム内ドクター往診を月2回、訪問看護の診察が月2回ある。	かかりつけ医への定期的な通院は基本的に家族に同行を頂いているが、緊急時には職員が直接に医師への詳しい説明を行うなど情報交換が行われている。受診後は受診結果報告書を家族に記載いただき、職員への周知が図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月に2回、訪問看護師の診察があり、状態の変化時は訪問看護に連絡する等、相談体制はできている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院になった際は、介護サマリーの提出をしている。入院中も病院関係者と退院に向けて連携をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	まだ看取りの支援の体制面には課題があるため、要介護4.5になった際などはご家族と話し合いながら方針を決めるようにしている。	重度化や終末期に際しては、段階ごとに家族と話し合い、現状についてや今後のリスクの説明が行われている。家族が不安にならないよう取り組み、今後の状態に見合った施設への申し込みを含めた様々なアドバイスもなされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応のマニュアルがあり、新入職者オリエンテーションなどにて各自のイメージトレーニングは出来ている。事故報告書、ヒヤリハット記録を基に再発防止に取り組んでいます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防訓練を実施、避難誘導の消防署の指導を受けている。今年度も夜間を想定した消防訓練を行いました。業務継続計画を作成し研修や訓練を行いました。	火災や地震発生時、特に夜間帯も想定し、消防署の指導を受けての避難誘導訓練が定期的に行われている。また、災害対策マニュアルの整備を行い、参集可能時間把握表と緊急連絡網の再作成も実施され、停電時の電源確保や備蓄も完備されている。	災害発生時は事業所だけの対応では難しいと想定されることから、地域の防災訓練への参加や事業所の訓練への呼びかけを行い、地域との連携を図る取り組みに期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格やプライバシーを尊重し、声掛けや介助の仕方等職員間で確認、話し合いながら適切な対応が図れるように支援をしている。	居室内での自由の確保、排泄介助時や入浴時などでのプライバシーの確保にも気を配られている。「言葉使いの乱れがサービスの質を低下させる」との考えに立ち、職員同士がチェックし合い、みんなで気を付けるよう取り組まれている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	無理強いすることなく、自己決定困難者に対しても、最終決定は利用者が行える様な声掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	日課を強制することなく、各自のペースに合わせた。作業に参加できる様々な提案を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来るだけ更衣時には、本人が着たいものを選択できるよう配慮している。季節に合わせた服装を促している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も一緒に食事を行い、味についても意見をきき改善しています。行事にて職員と一緒に手作り料理を行い楽しまれている。	日常の食事は好き嫌いや食事形態にも十分配慮され提供されている。行事では入居者も職員に混ざって参加し、焼きそばや餃子パーティーも行われ、更に、恵方巻を巻いたり、プリンを盛り付けるなど手作りすることを楽しまれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態の工夫など個別に対応をしている。水分の摂取量を記録し不足分は追加で飲用を促している。好きな飲み物を個別で飲まれている利用者もいます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には見守り誘導し、口腔ケアを実施している。各フロアで、口腔ケアチェック表をつけ確認をしている。歯科医師より口腔ケアマネジメント計画にて、意見をもらい、職員皆に周知し介助に活かしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンの把握に努め、オムツ等の使用開始には十分配慮しなるべく使用しない方法を検討している。	「立位が取ればトイレ排泄」を基本に、オムツ使用などには出来るだけ頼らないよう支援が行われている。声掛けの際には「トイレ」とは言わず、「こちらへ」とさりげなく自然に誘導することで、入居者のプライドや羞恥心にも配慮されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適切な水分摂取を促し便秘予防に努めている。運動不足を少しでも解消の為、体操や機能訓練(作業療法士の指示のもと)は個別のメニューの取り組みも始めました。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	3日に1回のペースで入浴を行っている。利用者の状態や希望、体調等により個別の支援をしている。	「週に2回、月8回の入浴」を目標に支援が行われ、人員の確保などにも工夫が図られている。また、入浴時には入居者の体調や健康管理にも気を配り、さらに入浴前に浴室をシャワーで温度を上げるなどのヒートショック対策も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に臥床休憩が取れるよう促したり、年齢等を考慮し個別に休憩時間が取れる様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	追加になった薬などは申し送りし皆に周知している。服薬内服支援では2重チェックし、特に誤薬には注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりの状況に応じ、掃除や洗濯ものたたみ等のお手伝いを提供したりレクリエーションを工夫したりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事にてお花見や初詣など外出の機会を設けている。誕生日に外食や買い物の同行支援、またご家族様の協力もある利用者もいます。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には本人がお金を持つことは控えていたが、買い物希望される利用者は個別に購入したり、ご家族と買い物に行きたい利用者にはお金を使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	状況に応じ、ご家族や友人に電話をかける支援をしたり、希望により手紙のやり取りをされる利用者もおられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の壁飾りをしたり、行事の写真を飾るなどしている。居心地の良い空間づくりの為に室温や光に配慮をしている。	陽当たりが良く、落ち着いた雰囲気のある共用空間には、入居者が集まって過ごされることが多く、広い廊下を自由に動かれている。通路の安全性にも配慮がなされ、また、入居者の相性も考えた席次などにも配慮がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個室ではテレビを見たり、音楽を聴いたり、横になったり自由な時間を楽しんでいる。またフロアにて、利用者同士が、会話できる空間づくりをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	思い出の品を置いたり、使い慣れた好みのものを持ち込んでもらいご本人が居心地よく安心して過ごせるようにしている。	居室ではCDコンポで好きな音楽を聴いたり、家族の写真を貼ったりして自由に過ごされている。入居者の動きや身体状況に合わせた家具の配置などにも気を配り、安全に安心して生活できるよう支援がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや洗面所には、わかりやすいように表示をしたり、居室に目印をつける等、不安なく行動に移せるように工夫している。		

(別紙4(2))

事業所名: トウルーケアGHなのはな

目標達成計画

作成日: 令和6年3月25日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	・災害対策 地域との協力体制の構築。	災害発生時は事業所だけでの対応では難しいと想定されることから、地域の防災訓練への参加や事業所の訓練へ外部者等に参加呼びかけを行い、地域との連携が図れる。	・安行地区防災訓練にGH長(防災管理者)が参加し、町内会を中心とした連携を図る。 ・外部者の参加呼びかけの具体案がまだ出ず、スタッフ皆で解決方法を検討する。	12ヶ月
2	4	・運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議の集合形式が復活されたが、まだご家族の参加が少ない。	運営推進会議にご家族も参加しやすい機会をつくり、意見交換ができる。	・イベント(行事)にご家族に参加してもらい、運営推進会議を同時に行い、ご家族に意見をもらう。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。